

平成22年度 猪名川町・小学校 学習到達度調査の結果について

猪名川町教育委員会学校教育課

■調査目的

- 猪名川町の小学校児童の学習状況を調査し、領域、観点、基礎・活用ごとにその結果を示すことにより、学習指導上の問題点および改善点を明らかにする。

■調査内容

- 調査の目的に基づき、学習指導要領に定める内容のうち、ペーパーテストで調査を行うことが適当なものについて学力調査を実施した。

■調査対象

- 町内の公立小学校第5学年の児童
- 調査対象教科は、国語・算数

■調査日

- 平成23年2月3日

■調査結果

【小学校の調査結果】

		調査結果（町）	期待正答率	全国平均
小学校 第5学年	国語	71.6	68.9	71.1
	算数	75.1	71.2	79.1

■小学校第5学年【国語】

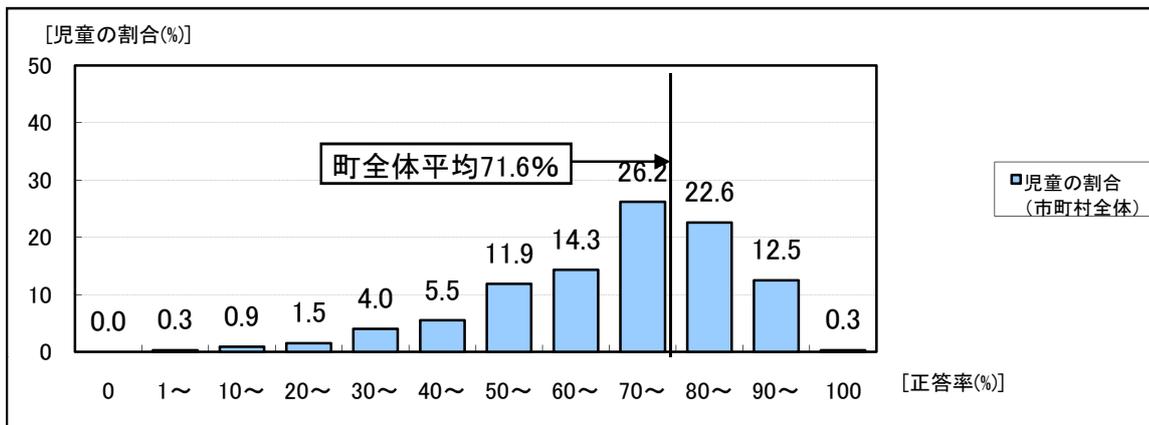
(1)国語の正答率

期待正答率	町全体
68.9%	71.6%

* 小5国語の町全体の正答率は71.6%で、期待正答率を2.7ポイント上回っている。

町内全体

正答率	0	1~	10~	20~	30~	40~	50~	60~	70~	80~	90~	100
児童の割合 (市町村全体)	0.0	0.3	0.9	1.5	4.0	5.5	11.9	14.3	26.2	22.6	12.5	0.3

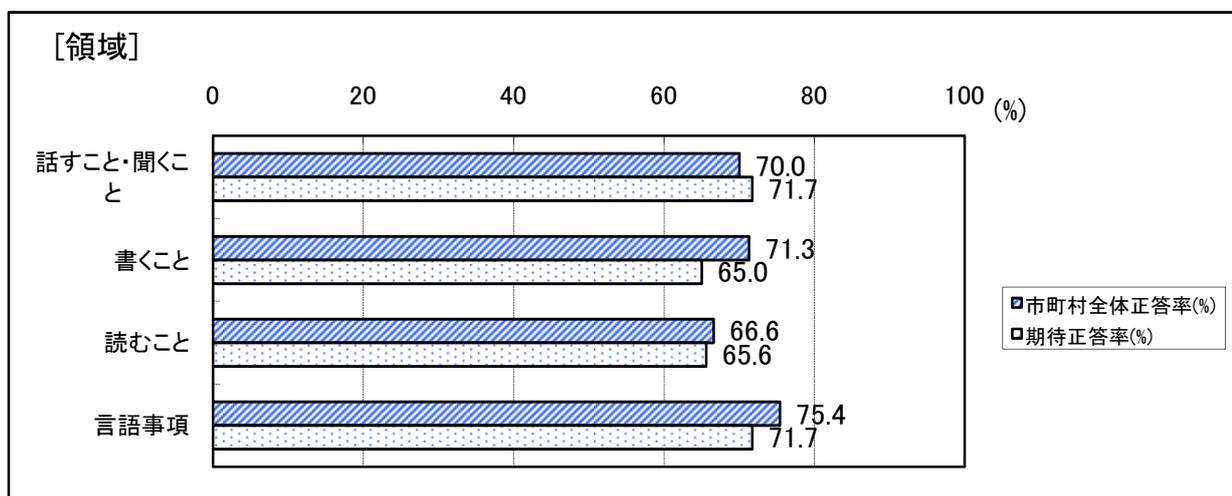


* 町全体で正答率80%以上の児童が35.4%を占めている一方で、正答率50%未満の児童が12.2%存在する。

(2)領域別正答率

町内全体

	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	言語事項
市町村全体正答率(%)	70.0	71.3	66.6	75.4
期待正答率(%)	71.7	65.0	65.6	71.7
期待正答率との差	▲1.7	6.3	1.0	3.7



* 国語での正答率が期待正答率を上回っているのは、書く領域が大きく上回り国語全体を押し上げたことによる。言語事項も期待正答率を上回り、おおむね満足といえる。

①話すこと・聞くこと

期待正答率71.7%に対して70.0%の正答率で1.7ポイント下回っている。聞く話す領域は、大問1であり、全ての小問が期待正答率をわずかながら下回った。

特に司会者の立場で発言の内容をまとめる小問(3)は期待正答率を5ポイント近く下回った。意見全体ではなく、意見の一部しかまとめて書くことができなかった準正答が35.4%あり、司会者の立場で発言者の意見を的確に聞き取り、まとめることに課題が見られる。

話し合いでの司会の役割については、何より実際に自分で体験することが大切である。そのため、授業の中で、児童同士の話し合いの場を多く設定し、司会者の役割を全ての児童が体験できるような工夫が重要である。

②書くこと

期待正答率65.0%に対して、町の正答率は71.3%で6.3ポイント上回っている。書く領域での問題は、主に大問6の作文問題に集約されている。

条件指定として、2段落構成、字数制限(141字～200字)、内容として「知ってもらいたい行事」を第一段落に、「行事に参加したときの感想」を第二段落に書かせるが、2段落にはなっているものの、行頭1字空けになっていないものが4.9%、7行で書いているものが5.2%と、基本的な作文の書き方に課題が見られた。授業の中で、書かせる機会を多く持たせるとともに、原稿用紙の正しい使い方についても、合わせて指導したい。

③読むこと

読む領域での問題は、大問4・5で、物語文、説明文を読み取る問題であった。

期待正答率65.6%に対して正答率は66.6%で1.0ポイント上回った。説明文の大問5(1)(4)が、期待正答率を10ポイント程度下回っている。

説明文では、傍線部が何を指しているかを正確に読み取ることが基本である。今回の場合、傍線部の「ふり方」以外に「ふる季節」があり、筆者はそれを区別して述べている点に着目できるかが大きなポイントとなる。部分的に正確に読み取ることが、全体的にまとめて読むことにつながるため、重点的に指導したい。

④言語事項

期待正答率71.7%に対して正答率75.4%と3.7ポイント上回った。

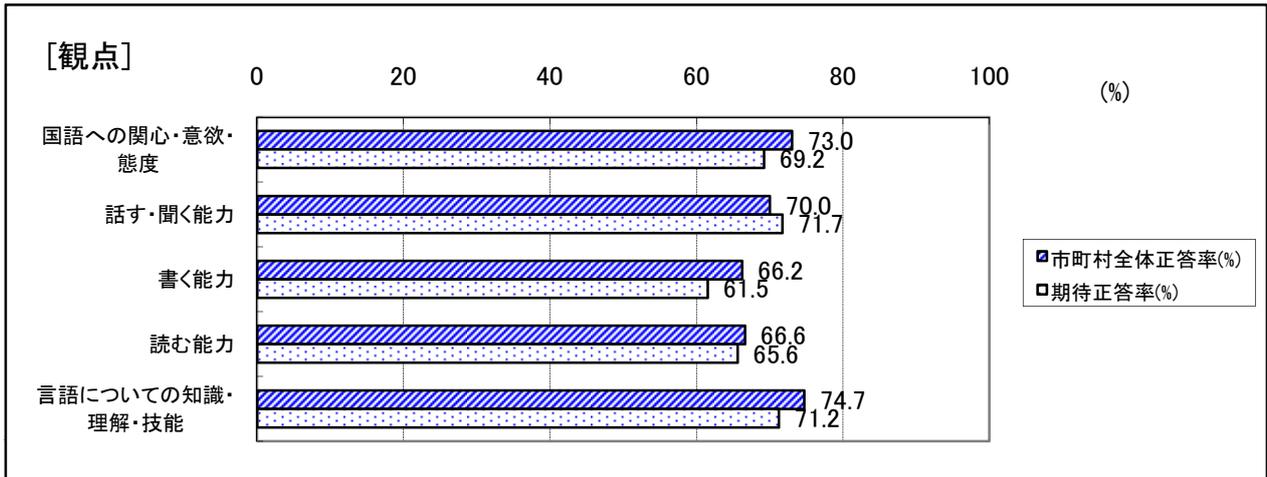
大問3の文法・語句に関する知識問題では、正答率が軒並み期待正答率を上回ったが、大問2の漢字の読み問題では「試みる」が53.4%と、期待正答率を20ポイント以上下回った。

漢字の読みでは、日常的に使用する言葉は読めたり書けたりできても、そうでない言葉については定着していないことが多い。児童のもともとの語彙にない言葉でも、新出漢字とともに、新たなボキャブラリとして身につけられるようにしたい。

(3) 観点別正答率

町内全体

	国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能
市町村全体正答率(%)	73.0	70.0	66.2	66.6	74.7
期待正答率(%)	69.2	71.7	61.5	65.6	71.2
期待正答率との差	3.8	▲1.7	4.7	1.0	3.5



① 国語への関心・意欲・態度

期待正答率69.2%に対して正答率73.0%と3.8ポイント上回った。ペーパーテストによる国語科への関心・意欲・態度を評価することはかなり難しいが、小問ごとに主たる観点と従たる観点を設け関心・意欲・態度での観点として大問1と大問6を設定した。話し合いの聞き取りと学校行事における題材を作文に書かせる問題である。

話し合いの聞き取りでは、記述問題について正答率が期待を5ポイント近く下回った。また、作文については無解答率が13.4%となっている。話し合いにおいても作文においても、まずは児童に慣れさせることが重要である。問題として解く際に不慣れが原因で解けないことのないように、ふだんの授業から児童に経験を積みませてもらいたい。

② 話す・聞く能力

聞き取り問題では、一言一句メモをしようとして、途中で挫折してしまうケースが多い。メモをする際に重要なのは、話題の中心となるキーワードを聞きながら判断することである。ふだんから1対1もしくはグループで、話し合いの場を多く持ち、発言者の意見の要旨を的確にメモできるような訓練が必要である。また、自分が話す際に、どのようにすれば相手に伝えやすいかを考えながら聞くように意識付けをさせ、コミュニケーション能力を向上させたい。

③書く能力

書くことについては、作文だけではなく、漢字の書き問題や、物語文・説明文での記述問題、話し合いの聞き取りにおける自由記述などにおいても大きくかかわってくる。

まず児童が文を書くことに慣れることが先決である。教科書の文を書き写すなどの基本的なことから、短くてもよいので自分の言葉で文を書かせ、表現力を磨くことも重要である。また、その際に忘れてはならないのは、書いた後にしっかりと自分の文を見直す作業である。見直すことで、誤字・脱字などのケアレスミスも見つかり、「このように書いた方がよいのではないか」という推敲もできるため、書く能力が飛躍的に向上する。日頃からこうした指導を徹底していきたい。

④読む能力

読む能力については、期待正答率をわずか1.0ポイント上回っており、ほぼ同程度といえる。

文学作品では、場面の様子と登場人物の読み取り、説明文では、目的に応じた文章の内容の読み取り、事実と意見の関係を押さえて読むなどの点が重要である。文章を読む際には、内容だけではなく、文章の構成をとらえることを身につけるとよい。段落ごとに内容をまとめて文章全体の構成図を作成したり、あらすじを書いたりするなどの活動を取り入れたい。

⑤言語についての知識・理解・技能

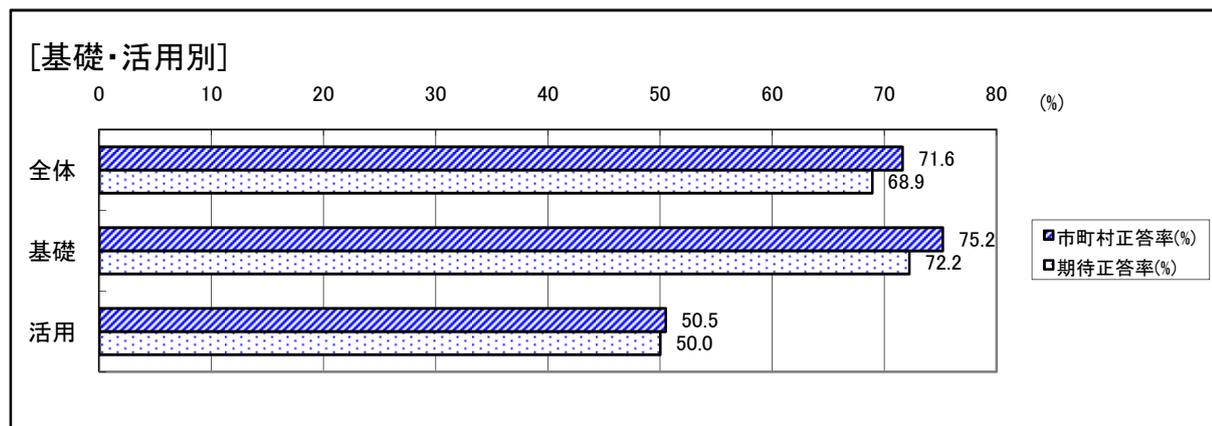
語句・文法については、全ての小問が期待正答率を上回っており、おおむね満足といえる。接続語や修飾語については、さらに力を伸ばしていきたい。

接続語については、接続語を使って一文を二文に書き換えるなどの練習を行うとよい。順接・逆接・付加・並列などの機能別に例を取り上げて、指導していきたい。また、修飾語については、修飾関係にある言葉を矢印で結ばせたり、修飾語のない文に後から修飾語を入れさせたりするなど、言語に特化した指導を行って力を伸ばしたい。

(4)基礎・活用別正答率

町内全体

	全体	基礎	活用
市町村正答率(%)	71.6	75.2	50.5
期待正答率(%)	68.9	72.2	50.0
期待正答率との差	2.7	3.0	0.5



活用観点として、思考・判断力および表現力を問う問題においては、特に表現力について問う大問1(3)、大問4(4)の2問が、いずれも45.7%と50%を下回っている。

活用観点としての表現力は、問われている内容に対して、自分なりの考えを答えとしての確にアウトプットする必要がある。字数制限や、空欄を文につなげるように埋めるなどの条件に合わせて文章表現を工夫できるように、書く活動を通して丁寧に指導していきたい。

■ 小学校第5学年【算数】

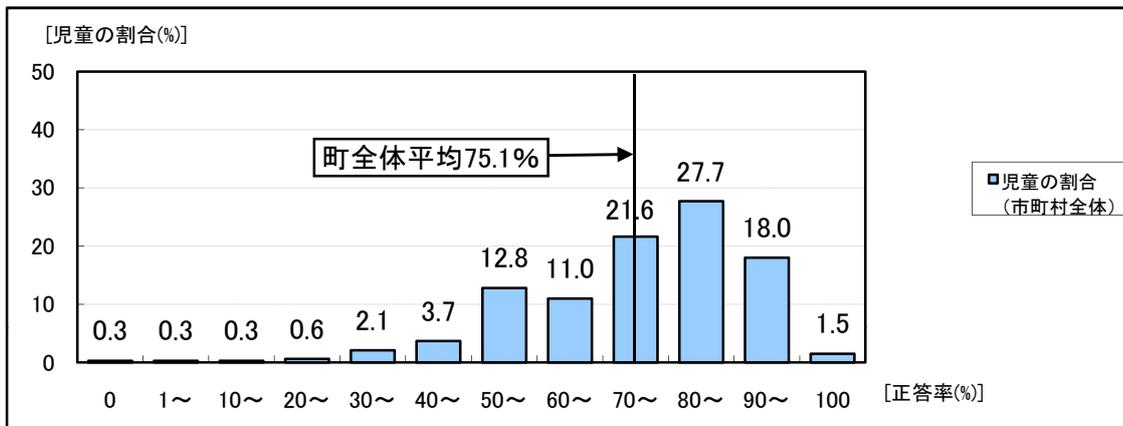
(1) 算数の正答率

期待正答率	町全体
71.2%	75.1%

* 小5算数の町全体の正答率は75.1%で、期待正答率を3.9ポイント上回っている。

町内全体

正答率	0	1~	10~	20~	30~	40~	50~	60~	70~	80~	90~	100
児童の割合 (市町村全体)	0.3	0.3	0.3	0.6	2.1	3.7	12.8	11.0	21.6	27.7	18.0	1.5

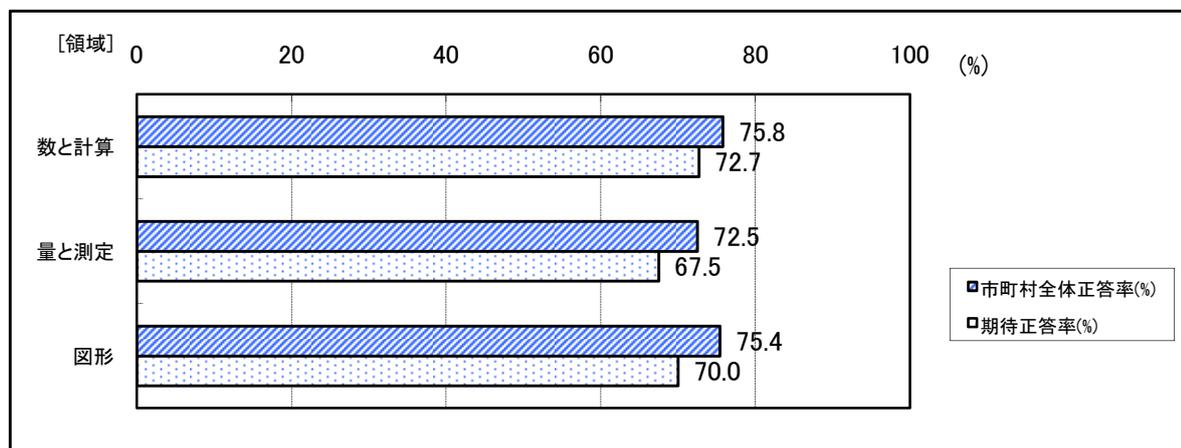


* 町全体では、正答率80以上の生徒が19.5%を占めている。一方、正答率50未満の児童が7.3%存在する。

(2) 領域別正答率

町内全体

	数と計算	量と測定	図形
市町村全体正答率(%)	75.8	72.5	75.4
期待正答率(%)	72.7	67.5	70.0
期待正答率との差	3.1	5.0	5.4



* 町全体正答率は「数と計算」が75.8%、「量と測定」が72.5%、「図形」が75.4%といずれも期待正答率を上回った。

①数と計算

期待正答率72.7%に対して正答率は75.8%で3.1ポイント上回った。小数の乗除の計算はおおむね良好だが、小数の1/100の位の数字を問う問題では、正答率が35.4%であった。誤答としては、与えられた小数の1/100倍した「数」自体を答えてしまうものが半数以上見られた。小数については、カードなどを用いて、小数が十進位取り記数法によって構成されていることを理解させることが大切である。

②量と測定

期待正答率67.5%に対して正答率は72.5%で5.0ポイント上回った。
 三角形や四角形の面積についてはおおむね良好だが、単位量あたりの面積と人数の割合を求める問題では、正答率が期待正答率を下回っている。
 単位量あたりの大きさの考え方を再度確認しておくとともに、人口密度の求め方を丁寧に指導する必要がある。混み具合は、人口か面積のどちらか一方の量にそろえることにより、比べられることをしっかり理解させるように指導したい。

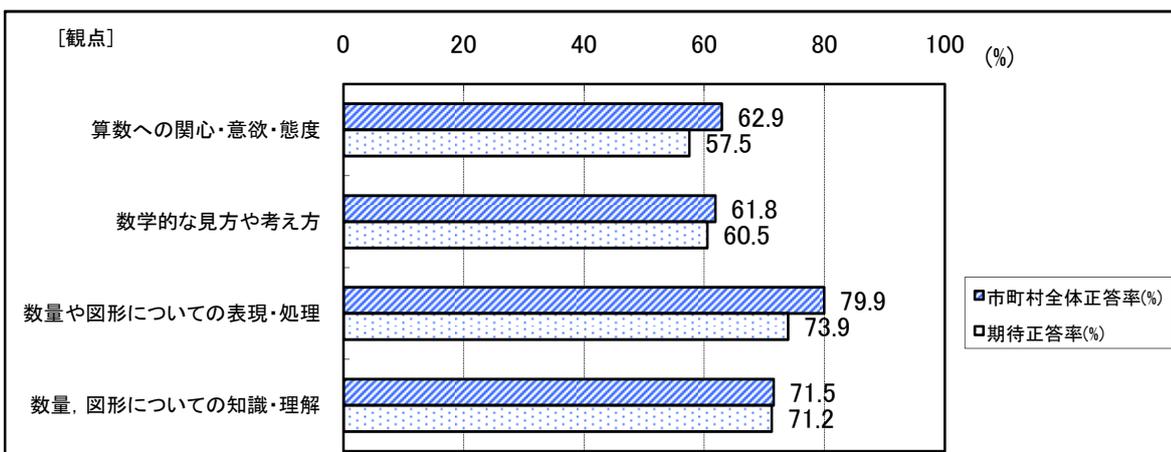
③図形

期待正答率70.0%に対して正答率は75.4%で5.4ポイント上回った。
 ただし、三角形の外角を求める問題で、正答率が期待正答率を下回った。誤答として多かったのは、外角ではなく残りの内角の角度を求めてしまったものが21.6%あった。
 角度を求める際には、計算で求めたのはどこの角度なのか、図形にかきこんで確かめる習慣をつけることが大切である。また、多角形の内角の和を求める際は、三角形の内角がもとになっていることに気付かせ、立式の根拠を理解させる必要がある。

(3) 観点別正答率

町内全体

	算数への関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数量や図形についての表現・処理	数量、図形についての知識・理解
市町村全体正答率(%)	62.9	61.8	79.9	71.5
期待正答率(%)	57.5	60.5	73.9	71.2
期待正答率との差	5.4	1.3	6.0	0.3



* 全ての観点で期待正答率を上回っていて良好である。

①算数への関心・意欲・態度

期待正答率57.5%に対して正答率62.9%で、5.4ポイント上回っている。
 ただし、小数の除法の検算方法の問題において、無解答率が22.3%となっている。他にも、10%を超える無解答率の小問が3問ある。単純な計算問題や、文章題など全て、立式の根拠の説明ができるような指導を心がけたい。単位量あたりの大きさなどは、児童が日常生活で目にする機会が多いので、意識して指導したい。

②数学的な見方や考え方

期待正答率60.5%に対して正答率61.8%で、1.3ポイント上回っている。ただし、小数倍の時の基準量を求める問題において、正答率が期待正答率をわずかに下回っている。

基準量と比較量が与えられている際、乗法と除法のどちらを適用すればよいか、理解が難しいようである。小数倍は整数倍に比べて、正答率が下がる傾向にある。問題場面を数直線などに表し、数量の関係を確実に把握させることが大切である。

③数量・図形についての表現・処理

期待正答率73.9%に対して正答率79.9%で、6.0ポイント上回っている。

小数の乗法・除法についてはおおむね良好だが、三角形・四角形の角度の求め方について、正答率が期待正答率を下回った。角度や面積の求め方については、公式を覚えることが必要不可欠だが、授業の中で、捜査活動を十分に取り入れ問題を解決していくことで、公式を忘れても、自らつくりだしたり角度や面積を求めるのに必要な条件をみつけだしたりする力を育てたい。

④数量・図形についての知識・理解

期待正答率71.2%に対して正答率71.5%で、0.3ポイント上回っている。

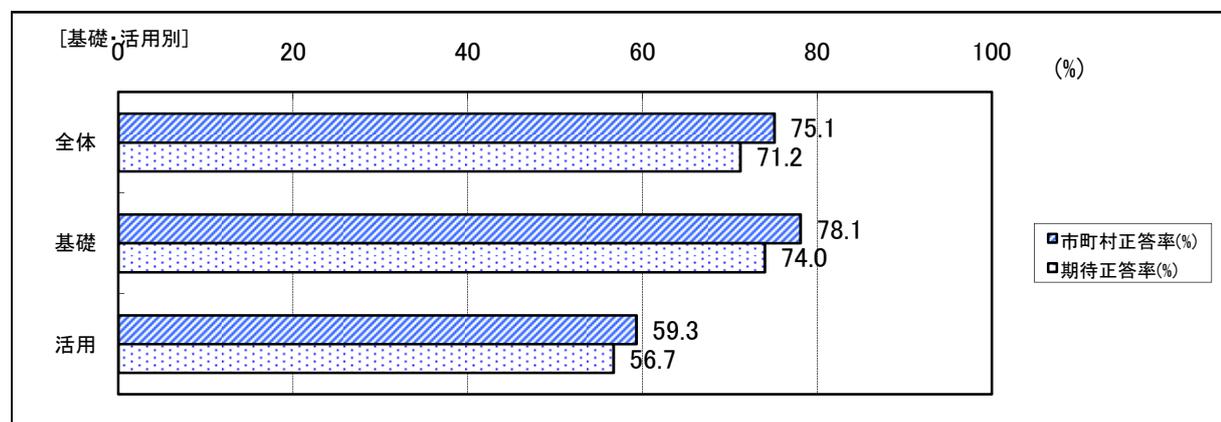
ただし、小数のしくみの問題で正答率が35.4%と、全ての小問の中で最も低くなっている。

小数のしくみについては、水のかさで学習した0.1、0.01という値の意味をもう一度再確認し、具体的な操作などを活用して、小数の十進構造や位取りの原理を確実に定着させることが必要である。小数の位取りの原理は、小数の乗除計算の基礎となるので、特に意識して指導したい。

(4)基礎・活用別正答率

町内全体

	全体	基礎	活用
市町村正答率(%)	75.1	78.1	59.3
期待正答率(%)	71.2	74.0	56.7
期待正答率との差	3.9	4.1	2.6



活用観点として、思考・判断力および表現力を問う問題においては、思考力を問う大問16、表現力を問う大問15において、正答率が40%を下回っている。

算数における表現力を高めるには、児童が自分で操作し、グループ内で自分の考えを説明する時間を設定する。さらに、グループでまとめた考えを発表し、他のグループの考えと自分たちの考えを比較・検討し、話し合うなどの活動が重要である。